

# 「アドベンチャースクールを通じた、地域の人材育成」

～地域の可能性を引き出す社会教育の在り方～

令和8年2月26日

## 〈自己紹介〉

名前

秋山 爽(あきやま そう)

年齢

20歳

出身

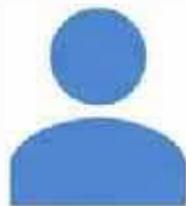
標茶町

経歴

北海道有朋高等学校卒業



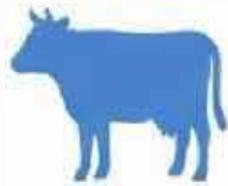
# 標茶町について



**人口: 6,687人**  
(令和8年1月末現在)



**面積: 1,099.37km<sup>2</sup>**  
(東京ドーム約23,500個分)



**産業: 酪農**  
(乳牛が約48,000頭)

## 事例発表にあたって

○北海道社会教育主事会のメインテーマ

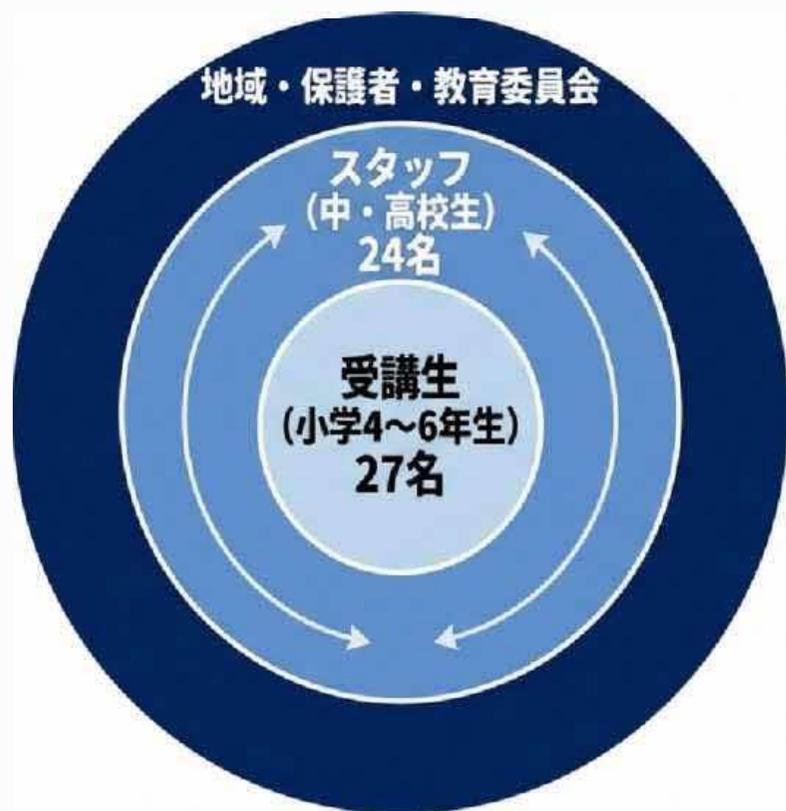
「持続可能な社会の実現に向け、  
地域の可能性を引き出す社会教育の在り方」



アドベンチャースクールは標茶町の将来を担う  
人材育成に貢献しているのでは？

# アドベンチャースクールとは：多世代が関わる学びの場

目的：様々な体験活動を通して「自分を表現する力」「協力する力」「あきらめない力」を高める



- ・対 象：町内の小学4年生から6年生  
(受講生27名/町内の小学生の10%)
- ・スタッフ：中学生4名  
高校生20名(全校生徒の12%)
- ・講 座：年間8講座＋特別講座3講座

# ステージ1～2: 自然の中で育む「協力」と「挑戦」

5月: カヌー体験講座

6月: 西別岳登山



目的: 協力する力を高める

成果: 仲間同士で息を合わせる難しさや、協力の大切さを学んだ



目的: あきらめない力を高める

成果: 互いに支えあう姿。地域の魅力に気付く

魅力を発見→感動→愛着

## ステージ3～4: 他町村との交流と地域の歴史

8月: 2町村合同宿泊研修



目的: 他町村との交流、主体性

成果: 親元を離れ、自分で考え行動する主体性の獲得

9月: 乗馬体験講座



目的: 標茶町の歴史をしり、命を学ぶ

成果: 標茶町の開拓の歴史を学び、動物とのコミュニケーションを知る

## ステージ5～6: 豊かな自然への畏敬と忍耐

10月: 秋の散策活動



目的: 自然の知見を深める

成果: 自然の豊かさを肌で感じた

2月: ワカサギ釣り体験講座



目的: 粘り強さ、あきらめない力

成果: 寒さの中で耐え続ける忍耐力と  
地域資源の豊かさを再確認

## 参加者の声：体験から得た「気づき」

### 小学5年生（受講生）

「皆と協力して活動する中で、1人では出来ないことも友達と協力することで出来るようになる学びました。」

### 保護者

「家庭から離れた環境で、学校とは違う交友関係ができた、普段なかなかできない体験ができたようで良かったです。」

### 高校3年生（スタッフ）

「様々な個性を持つ子供と関わる中で、一人ひとりにあった接し方を考え活動することができました。子供たちの柔軟な発想に気付かされることも沢山ありました。」

# 活動方針の転換:「体験」から「愛着」へ

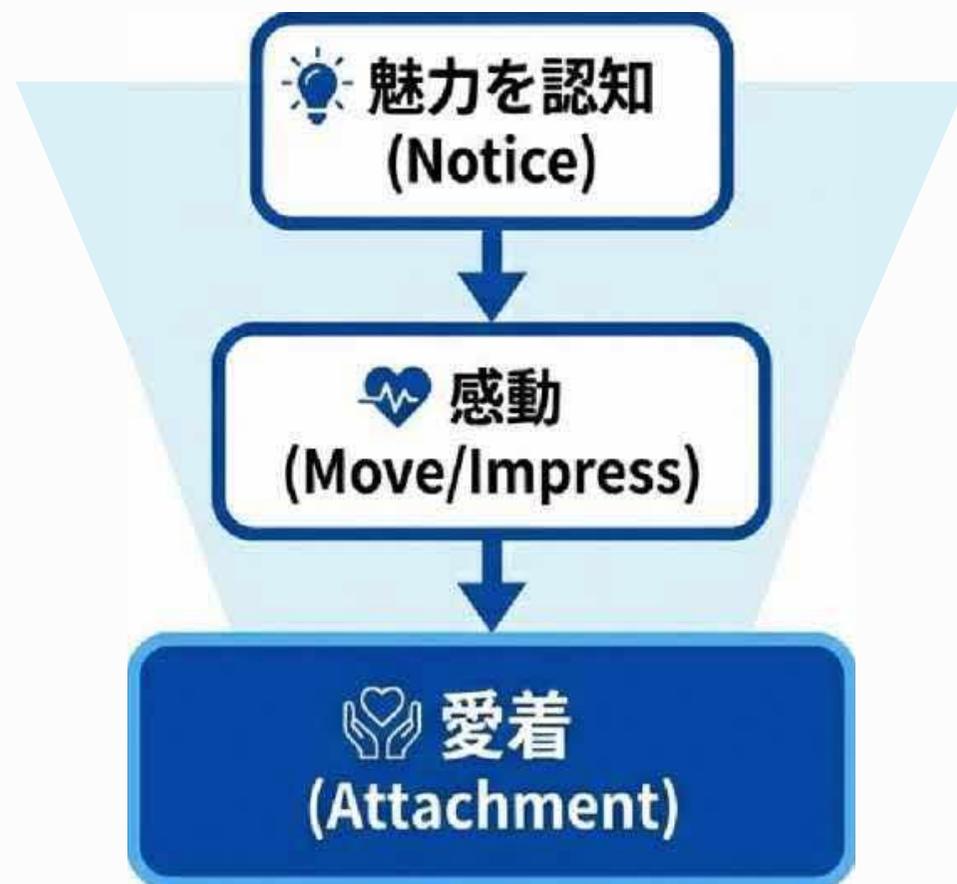
町政執行方針・教育行政方針

「ふるさと標茶に愛着を持ち、自らの夢の実現のために挑戦し続ける子どもの育成」



社会教育における新たな目標

「標茶の魅力に気づき、標茶を知り、愛着を持ってもらう」



# 活動内容の変化

## ○一般的な体験活動

植樹活動、キャンプ、物づくりetc



## ○地域資源を活用した体験活動

- ・ワカサギ釣り、カヌー体験
- ・ドサンコの乗馬体験
- ・西別岳登山

活動を通して自然・歴史・産業を知り、地域の人と関わり  
標茶町の魅力を知る



# 循環の始まり：受講生からスタッフへ



## 高校生スタッフが参加する理由 (Motivation)

- 将来に役立てたい  
(保育士や教員志望)
- 地域の子どもと関わりたい
- かつて自分が楽しかったから、  
今度は楽しませたい

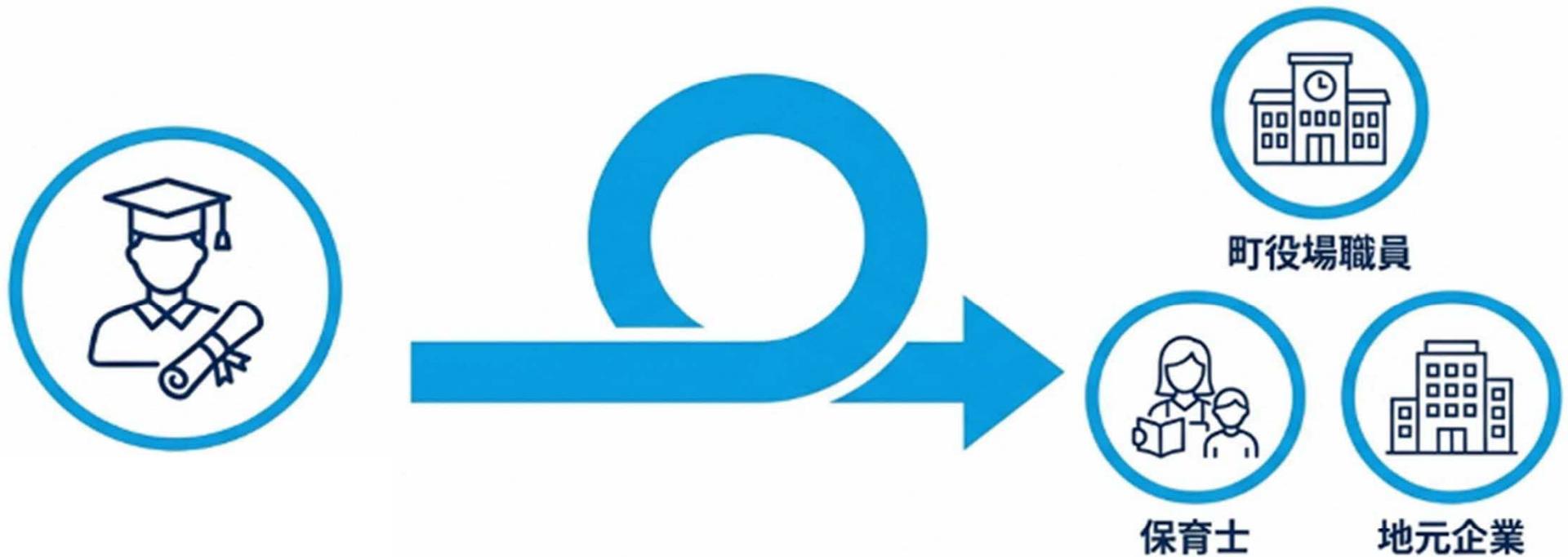
# 20歳のつどい：再会と結束

## アドベンチャースクールが生んだ絆

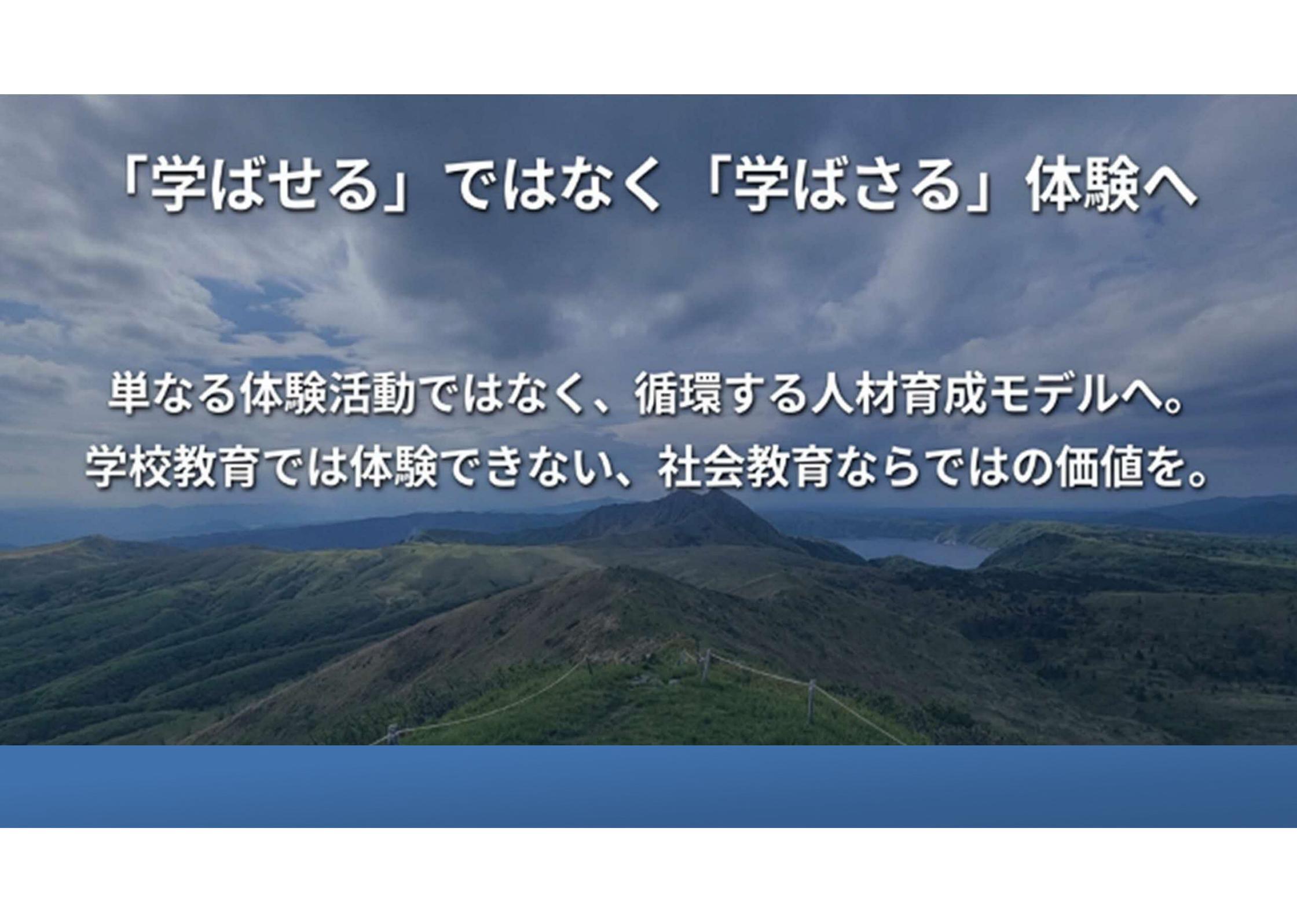
- ・20歳のつどい後に行う交流会を元アドベンチャースクールメンバーを中心に組織。
- ・子供時代の共通体験が、大人になってからのコミュニティの核になっている。



## 地域への還流：高校生から社会人へ



標茶町への愛着から戻ってくる人がいる



**「学ばせる」ではなく「学ばさる」体験へ**

**単なる体験活動ではなく、循環する人材育成モデルへ。  
学校教育では体験できない、社会教育ならではの価値を。**

# 循環する人材育成モデル



ご清聴ありがとうございました